

魚の町に新たな文化の中心をつくる

—あらゆる多様性が共存するレトロ・ヴィレッジ—

提案における3つのポリシー

1. 私たちは「場所づくり」だけに留まらない「出来事づくり」を目指します！
2. 単なる「サブリース事業」ではなく、長崎の未来と可能性を発信する「まちづくり事業」として取り組みます！
3. 「長崎をより良くしたい」という強い信念と情熱をもったチームです！



事業コンセプト

■長崎のヒト・モノ・コトをつなぐ拠点をつくります

- 旧魚の町団地がもつ歴史的、文化的な魅力を最大限に引き出すために、単なる住居やテナントのサブリースに留まらない積極的な価値創造を行います。
- 団地のこじんまりとしたスペースを生かして、長崎で起業したい若者世代などをメインターゲットとしたクリエイティブなSOHO、スモールオフィスを計画します。
- 内装はDIYを前提とすることで、周辺相場よりも安い賃料設定とします。また利用者自身が改修に関わることで愛着が生まれ長期的な利用につながると考えます。
- すべての部屋をサブリースするのではなく、事業者直営によるシェアスペースを計画しつつ自身がヒト・モノ・コトをつなぐプレイヤーの役割を担うことで、入居者や地域住民、来訪者の幅広い交流を促すためのコミュニケーションやイベント企画を図ります。

■〈シェアスペースの具体例〉

- 子育て世代のつながりをつくる子ども食堂や地域住民の憩いの場、飲食店のスタートアップに利用できるシェアキッチン（運営者で営業許可を取得予定）
- ノマドワーカーや学生が気軽に利用できるコワーキングスペース。運営事務所を兼用し事業メンバー自身も積極的に利用することでコミュニティづくりのきっかけとします。
- 展示販売やワークショップなどの幅広い活用ができるイベントスペース。市民会館や市役所などの周辺施設や高校、大学など教育機関との連携も図ります。
- 日本独特の団地文化を体験できる観光・インバウンド向けの民泊ゲストハウス。空いている部屋をフレキシブルに活用しながら収益にもつなげます。

地域への貢献

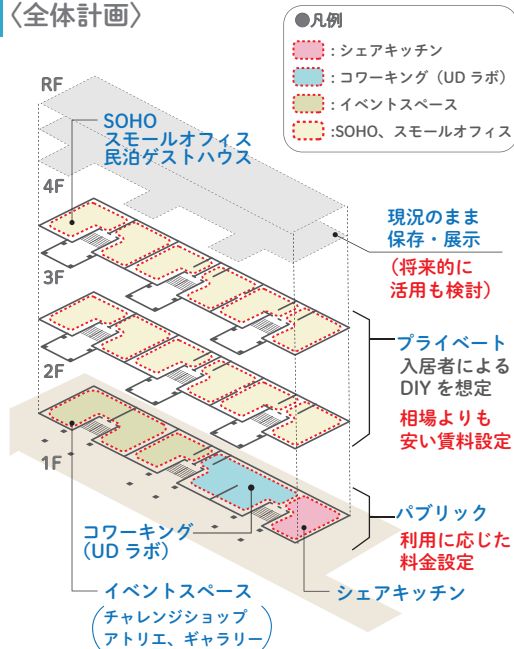
■これからの時代にふさわしいマルチスケールなコミュニティの拠点をつくります

- 旧魚の町団地は、駅前エリアや旧市街エリアなどからなる中心市街地の「へそ」に位置しています。この立地特性を生かすためには、町内単位のマイクロなコミュニティに加えてよりマクロなエリアをつなげるハブとしての役割が重要です。
- 人口減少や高齢化によって、自治会といった地域住民のみからなるマイクロなコミュニティは維持が難しくなります。そこでレトロな団地がもつ独特の魅力に共感する「魚の町ファン」をコミュニティの関係人口として県内外から取り込むイベント等を企画し、既存のスケールを超えたよりマクロなコミュニティのあり方を目指します。

■地域課題に取り組むまちづくりの拠点（仮称：UDラボ）をつくります

- 私たちはこれまでに実施してきたまちづくり活動の経験を生かして、地域課題の発見に向けたフィールドワークやリサーチを行うとともに、地域住民や教育機関、行政等と連携してワークショップを開催するなどのまちづくり事業に取り組みます。
- とくに課題とされる空き家等の空間ストック活用については、魚の町のような中心市街地だけを対象とするのではなく、共に都市機能の一端を担う斜面住宅地なども含めたランドデザインを考えることで地域活性化に貢献します。

〈全体計画〉



〈コミュニティ・ハブのイメージ〉



〈まちづくり事業のイメージ〉

